



参考：外務省ウェブサイト (<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/pacific.html>)、堀武昭「南太平洋の日々」(日本放送出版協会)、ほか

とうしょ  
太平洋島嶼国

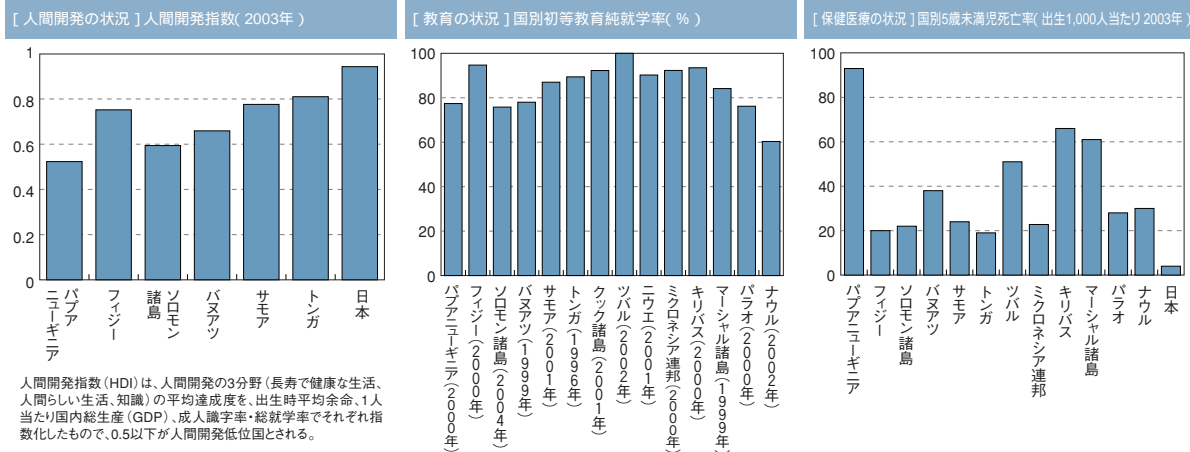
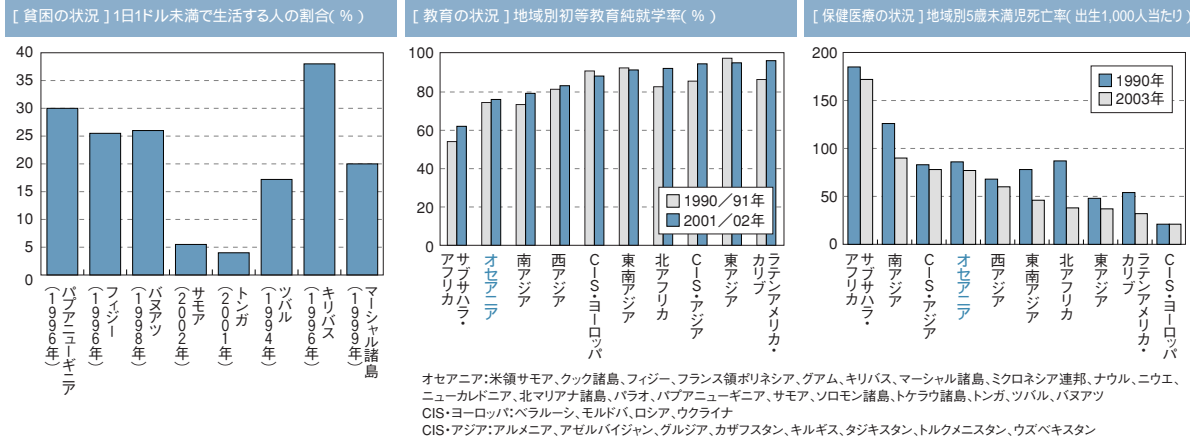
07

B

ミレニアム開発目標と太平洋島嶼国

DATA

出典：国連「The Millennium Development Goals Report 2005」、Secretariat of the Pacific Community PRISM、国連開発計画 (UNDP)「HUMAN DEVELOPMENT REPORT 2005」

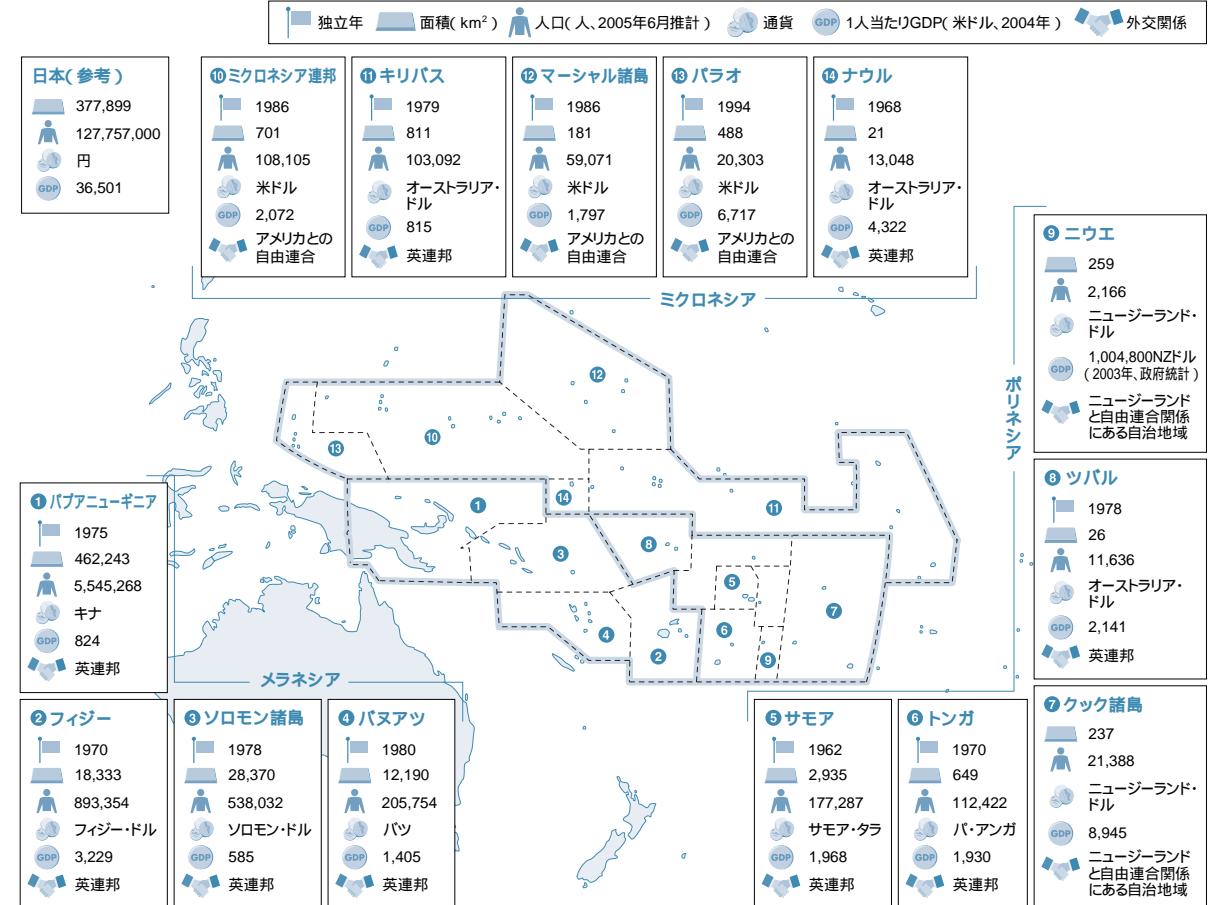


A

太平洋島嶼国の基礎データ

DATA

出典：南太平洋地域環境計画 (SPREP) ウェブサイト、米国中央情報局 (CIA)「THE WORLD FACTBOOK」、アジア・太平洋経済社会委員会 (ESCAP)「Statistical Indicators for Asia and the Pacific」、ほか



大洋州で貧困度の高い国

国際社会が定めた「ミレニアム開発目標 (MDGs)」は2015年までに達成すべき8つの目標※を掲げている。そのうち、貧困削減、初等教育の達成、乳幼児死亡率の削減について太平洋島嶼国の状況を概観してみよう。この地域で貧困度が高いのは、メラネシア3国 (バプアニューギニア、ソロモン諸島、バヌアツ) とキリバスだ。大洋州は全般的に見ると、サブサハラ・アフリカのような極度の貧困は見られないし、識字率もわりと高い。しかし、1人当たりGDPが低いメラネシア3

国と、パラオ、ナウルの初等教育純就学率は比較的低いレベルにある。5歳未満児死亡率に関しては、オセアニアは途上国の中では中ほどに位置する。地域内で突出して厳しい状況にあるのはバプアニューギニアだ。それにキリバス、マーシャル諸島が続く。その昔、この地域には「大きな魚を捕ったとき、それを独り占めにしてはならない」というおきてがあった。小さな島々が国際社会にいや応なく組み込まれた今、有限な資源をいかに分配するかが問われている。同じ太平洋の島国として、日本への期待は大きい。

「楽園」のイメージと厳しい現実

太平洋諸島フォーラム (PIF) 加盟国がカバーする海域は地球全体の6分の1に達し、島の数は4,000以上にも及ぶ。この地域は、メラネシア (黒い島々の意)、ポリネシア (多くの島々の意)、ミクロネシア (小さな島々の意) の3つに分類される。16世紀以降、西欧による「発見」以来、すべての国が植民地となる経験をした。比較的新しい国が多く、独立が一番早いのが1962年のサモア、最後が94年のパラオだ。太平洋の島々というと、美しいさんご礁から「楽園」

のイメージを思い浮かべる人が多いかもしれない。だが、実際に観光産業が根付いているのはフィジーやパラオ、クック諸島だけで、楽園どころかさまざまな問題を抱えている。面積や人口など国土の規模が非常に小さく、島が拡散し、海外市場から遠く離れているという悪条件は経済的自立を困難にし、旧宗主国や自由連合協定締結国からの援助に大きく依存している。国外への出稼ぎ労働者からの送金も大切な収入だ。資源に乏しいという不利な状況の中、援助への依存から脱却するための道が模索されている。

※「極度の貧困および飢餓の撲滅」「普遍的初等教育の達成」「男女平等および女性の地位強化の推進」「乳幼児死亡率の削減」「妊産婦の健康の改善」「HIV/AIDS、マラリア、その他の疾病との闘い」「環境の持続可能性確保」「開発のためのグローバルなパートナーシップの推進」の8つ。